

## 日本組織適合性学会・理事長就任のご挨拶

東京大学大学院医学系研究科人類遺伝学分野  
徳永 勝士

この度、2016年10月22日の理事会の議を経て、日本組織適合性学会・理事長を拝命いたしました。理事長就任に際しまして、本学会の現状と今後の課題について日頃考えていることを述べます。

日本組織適合性学会の会員の皆様は、いうまでもなく、組織適合性に関わる HLA および nonHLA 分子、免疫担当細胞や各種臓器をさまざまな切り口から研究し、その成果を移植および輸血医療の現場に役立てるための最前線に立たれており、その活動は今後も極めて重要です。そのために、ゲノム解析、タンパク構造解析、免疫療法、再建・再生医療などの領域に見られる急速な進歩に参加・貢献し、その成果を取り入れて活用することが求められます。もちろん、HLA 多型のタイピング法や抗 HLA 抗体検査法などの開発や比較検討は本学会の果たすべき中心的な役割であり、そのために QC ワークショップを実施するとともに、HLA 検査技術者・組織適合性指導者・組織適合性検査施設の認定制度を推進しています。

これらに加えて、主要組織適合性複合体 (MHC) の基礎研究と臨床応用への注目度が新たな高まりを見せています。多くの疾患への感受性・抵抗性、また各種薬物への過敏症などに関連する HLA と nonHLA 遺伝子の同定および発症機序の解明が、個人に適した医療の実現を目指すうえで大変重要な研究領域になっています。さらに近年は、がんの免疫・ゲノム医療における HLA および組織適合性の重要性が従来に増して認識されており、その臨床応用に大きな期待が寄せられています。また、組織適合性をはじめ免疫反応に関わる MHC および nonMHC 遺伝子群の多様性や進化の研究も重要な分野です。

日本組織適合性学会の目指すところは、学会員の皆様と共に、このような基礎および臨床研究の推進の核となり、学術集会や学会ホームページなどを通してその成果を社会に発信することにあります。若手および中堅の学会員の育成や支援によって、学会活動の継承と発展を実現することも特に重要な課題であると考えます。さらに、海外への成果の発信や海外関連学会との交流の促進も目指したいと思えます。

学会員の皆様には本学会の活動に御理解と御支援を賜りたく、どうかよろしくごお願い申し上げます。皆様の御意見や御提案をお待ちしております。

## 事務局移転のお知らせ

平成 28 年 10 月 22 日に開催されました、日本組織適合性学会の理事会，評議員会および 23 日の総会において，学会の新たな執行部体制が議決，承認されました。それに伴い，学会事務局を熊本大学大学院 生命科学研究部 免疫識別学分野内から，下記に移転いたしましたのでお知らせいたします。なお，入退会手続等の会員管理については，引き続き中西印刷株式会社を学会事務支局として外部委託しております。詳しくは日本組織適合性学会のホームページ (<http://jshi.umin.ac.jp/>) を御参照ください。

日本組織適合性学会事務局

〒 113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院医学系研究科 人類遺伝学分野内

電話：03-5802-2907

FAX：03-5802-8619

電子メール：hlajimu@m.u-tokyo.ac.jp

## 日本組織適合性学会における各種委員会の設置

日本組織適合性学会では、理事ならびに理事長の改選に伴う新しい学会運営体制の構築と連携して、学会運営に必要な下記の委員会を設置し、委員長ならびに委員を決定いたしましたので、お知らせいたします。

日本組織適合性学会  
理事長 徳永勝士

### 組織適合性技術者認定制度委員会（12名）

委員長：田中 秀則，副委員長：中島 文明  
委員：石塚 敏，一戸 辰夫，太田 正穂，木村 彰方，黒田ゆかり，高 陽淑，徳永 勝士，  
成瀬 妙子，西村 泰治，湯沢 賢治

### HLA 標準化委員会（13名）

委員長：田中 秀則  
委員：一戸 辰夫，太田 正穂，木村 彰方，高 陽淑，佐藤 壯，椎名 隆，中島 文明，  
成瀬 妙子，橋口 裕樹，藤原 孝記，湯沢 賢治，吉川 枝里

### 編集委員会（5名）

委員長：木村 彰方  
委員：高原 史郎，田中 秀則，成瀬 妙子，湯沢 賢治

### 将来構想委員会（13名）

委員長：小林 孝彰  
委員：一戸 辰夫，大戸 齊，笠原 正典，木村 彰方，高 陽淑，椎名 隆，田中 秀則，  
成瀬 妙子，西村 泰治，橋口 裕樹，平山 謙二，湯沢 賢治

### 教育委員会（16名）

委員長：太田 正穂，副委員長：笠原 正典  
委員：石塚 敏，一戸 辰夫，木村 彰方，高 陽淑，椎名 隆，津田 とみ，土屋 尚之，  
徳永 勝士，中島 文明，成瀬 妙子，西村 泰治，平山 謙二，宮寺 浩子，湯沢 賢治

### 学会賞選考委員会（7名）（任期：\*H28.9～31.9，\*\*H26.9～30.9）

委員長：徳永 勝士\*\*  
委員：猪子 英俊\*，木村 彰方\*，西村 泰治\*，間 陽子\*\*，一戸 辰夫\*\*，小林 孝彰\*\*

学術奨励賞選考委員会 (11名) (任期：H28.9～\*30.9, ～\*\*H29.9)

委員長：西村 泰治\*

委員：間 陽子\*, 一戸 辰夫\*, 猪子 英俊\*, 木村 彰方\*, 小林 孝彰\*, 徳永 勝士\*,  
田中 秀則\*\*, 土屋 尚之\*\*, 中島 文明\*\*, 湯沢 賢治\*\*

倫理問題検討委員会 (8名)

委員長：一戸 辰夫

委員：掛江 直子, 木村 彰方, 栗山真理子, 椎名 隆, 辰井 聡子, 徳永 勝士, 森島 聡子

選挙管理委員会 (6名)

委員長：間 陽子

委員：石塚 敏, 竹嶋伸之輔, 宮川 卓, 宮寺 浩子, 安尾美奈子

国際交流委員会 (新設) (6名)

委員長：笠原 正典

委員：間 陽子, 小林 孝彰, 細道 一善, 平山 謙二, 八幡 真人

## 第 26 回日本組織適合性学会大会のご案内

第 26 回日本組織適合性学会大会

大会長 一戸 辰夫

(広島大学原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科研究分野)

副大会長 大段 秀樹

(広島大学大学院医歯薬保健学研究院応用生命科学部門 消化器移植外科学)

このたび、歴史ある本学会の第 26 回大会を広島市で開催させていただくこととなりました。中国四国地方での本学会開催は初めてであり、充実した学术交流の場とすることは言うまでもなく、ぜひ会員の皆様はこの地域の歴史や風土に触れていただく機会とし、秋の広島を楽しんでいただける大会にしたいと考えています。今後、precision medicine, personalized medicine の基本情報として、HLA や MHC そして組織適合性の概念が広く医療現場や社会全体で利用されていくことを期待して、大会のテーマは「組織適合性学の医療と社会への新展開」といたしました。会場は平和記念公園のすぐ南側にあり、広島を中心街や世界遺産の原爆ドームへの散策にも徒歩 10 分の圏内にあります。学術企画は基礎研究者・検査技術者・医学研究者から成るプログラム委員会を構成し、すべての皆様にとって有意義な情報の提供が可能となるように鋭意立案してまいります。ぜひ、多くの演題の応募と多数の皆様の参加をお待ちしております。

会 期：平成 29 年 10 月 27 日（金）～ 10 月 29 日（日）

会 場：JMS アステールプラザ

〒 730-0812 広島市中区加古町 4-17 TEL: 082-244-8000

### 大会プログラム（予定）

特別講演 I：本庶 佑（京都大学）

特別講演 II：Megan Sykes（Columbia University）

特別講演 III：小林孝彰（愛知医科大学）

市民公開シンポジウム：「激甚災害におけるアカデミアの連携と地域復興」

Young Investigator Cutting Edge Lecture：杉本直志（京都大学 iPS 研究所）

学会賞受賞講演，シンポジウム（基礎・検査技術・臓器移植・造血細胞移植）など

### 演題応募期間：

平成 29 年 5 月 16 日（火）～ 6 月 30 日（金）

学術奨励賞の申請受付も同じ期間中に行いますので、奮ってご応募ください。

### 大会事務局・運営事務局

広島大学原爆放射線医科学研究所 血液・腫瘍内科研究分野

第 26 回日本組織適合性学会大会事務局 担当・川瀬孝和

〒 734-8553 広島市南区霞一丁目 2-3

TEL: 082-257-5861 E-mail: jshi2017@hiroshima-u.ac.jp

**大会ホームページ**

<http://jshi2017.org/>

現在、事前参加登録 [申込締切日 9 月 22 日 (金)]・宿泊予約 [申込締切日 10 月 1 日 (日)] を開始しておりますので、ぜひお早めにお申し込みください。

## 平成 29 年度の学術奨励賞候補者の公募について

### 会員の皆様方へ

日本組織適合性学会では、平成 26 年度より高い権威をもつ「学会賞」と、若手学会員の学術研究を奨励する「学術奨励賞」を設けております。学術奨励賞は「組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野における、秀でた学術的研究を若い学会員に奨励するために優れた若手研究者を表彰し、もって当該分野の発展に寄与すること」を目的としております。

本規定に則り、平成 29 年度の日本組織適合性学会の学術奨励賞候補者を、以下の要領で公募いたしますので、奮ってご応募ください。

### 1. 助成内容

平成 29 年度・学術集会大会（第 26 回大会：広島）に応募された一般演題で、さらに学術奨励賞にも応募された演題の中から、特に優秀と認められた演題の筆頭演者（応募者、原則として平成 29 年 4 月 1 日時点で満 45 才以下）に、学術奨励賞を授与いたします。授与件数は若干名で、賞金 5 万円あるいはそれ以下の副賞の授与を予定しております。

### 2. 応募資格

本学会の正会員（当該年度大会までに正会員となる者を含む）であり、以下の条件のすべてを満たす者とする。

- 1) 組織適合性ならびに免疫遺伝学の分野に関する学術研究において、その内容が優れていること。
- 2) 当該年度の会費を納入済みであること、または当該年度の学術集会大会までに正会員として会費を納入すること。
- 3) 学術奨励賞を受賞した者は、原則として次年度以降も正会員を継続すること。
- 4) 当該年度の学術集会大会に、筆頭演者として演題を応募すること。
- 5) 応募しようとする演題の内容において、応募者が中心的な役割を果たしていること。
- 6) 応募しようとする演題の内容が、本学会に未発表であること。
- 7) 受賞後に MHC へ原著論文あるいは総説を執筆できること。
- 8) 過去 3 年間に学術奨励賞を受賞していないこと。
- 9) 学術奨励賞の応募者は当該年度の 4 月 1 日において、原則として 45 才以下であること。

### 3. 応募方法

学術奨励賞に応募しようとする会員は、大会（学術集会）の一般演題申込み締切り日までに、一般演題登録用の大会 Web サイト上で 1) 演題抄録を登録する際に、下記の 2) 学術奨励賞・登録用紙をダウンロードして必要事項を記載し、同 Web サイト上に抄録と共にアップロードしてください。この操作により、学術奨励賞への応募が完了します。あるいは登録用紙を学術集会大会事務局（e-mail: [jshi2017@hiroshima-u.ac.jp](mailto:jshi2017@hiroshima-u.ac.jp)）あてに、メールで送信して頂いても結構です。なお大会 Web サイトの学術奨励賞応募画面にも、応募手続きに関する案内が掲載されていますので、そちらも御参照ください。

#### 1) 演題抄録

一般演題に応募した抄録

## 2) 登録用紙

1 頁目に、演題名、演者（全員）、所属（全員）、および応募者（筆頭演者）の氏名、生年月日、年齢、連絡先住所、電話番号、FAX 番号、e-mail アドレスを記入する。2 頁目以降に、応募した (1) 研究の背景、(2) 研究の意義、(3) 日本組織適合性学会との関わり（これまでの関わりと、今後の方針・計画など）を、項目ごとにそれぞれ 300 ～ 400 字程度にまとめる。

## 4. 選考および結果通知について

受賞候補者は学会会場で、「学術奨励賞応募演題」として口頭発表を行う。なお応募者が多い場合には、事前に書類選考を実施する。事前選考で選ばれた演題のみが最終選考の対象となり、事前の書類選考で選ばれなかった演題は、一般演題として発表される。

理事長、学術賞担当理事、学会賞選考委員、ならびに学術賞担当理事が選考した若干名の評議員によって構成される、学術奨励賞選考委員会が登録書類と学術奨励賞応募演題の発表の内容を評価する。奨励賞選考委員会は、学術奨励賞応募演題の演者の中から、若干名を受賞候補者として選考した後に、これを理事長に推薦して承認を得る。なお、委員が受賞候補者と緊密な利害関係にある場合は、当該候補者の審査には加わらないものとする。当該年の学術集会大会中に選考結果を公表し、表彰式を実施する。

## 5. 受賞者にかかる義務について

- 1) 学術奨励賞受賞者は、助成が行われた研究課題に関する報告書（様式は別途通知します）を、日本組織適合性学会事務局 ([hlajimu@m.u-tokyo.ac.jp](mailto:hlajimu@m.u-tokyo.ac.jp)) あてに提出する。
- 2) 受賞後原則として 3 ヶ月以内に、受賞課題に関する原著論文あるいは総説を MHC へ投稿する。

## 6. 助成金の使途

使途について特に制限はないが、学術奨励賞であることの趣旨を理解のうえ、適切に使用するものとする。なお受賞者は使途と、その内訳を前述の報告書に記載する。

## 7. 問い合わせ先

本件に関する問い合わせは、学術集会大会事務局（e-mail: [jshi2017@hiroshima-u.ac.jp](mailto:jshi2017@hiroshima-u.ac.jp)）または学術賞担当理事・西村泰治（e-mail: [mxnishim@kumamoto-u.ac.jp](mailto:mxnishim@kumamoto-u.ac.jp)）あてに、お願いいたします。



**組織適合性検査技術者認定制度  
平成 29 年度 認定 HLA 検査技術者講習会のお知らせ**

組織適合性検査技術者認定制度委員会

委員長 田中 秀則

組織適合性教育委員会

委員長 太田 正穂

**日 時**：平成 29 年 10 月 29 日（日曜日） 時刻：10 時 30 分～12 時 30 分の予定

**会 場**：第 26 回・日本組織適合性学会 大会会場

JMS アステールプラザ

〒730-0812 広島市中区加古町 4-17（TEL 082-244-8000）

**テキスト**：テキストは講習会の約 1 ヶ月前に、学会ホームページ上に掲載しますので各自、御参照ください。  
会場でのテキストの販売は、いたしません。

**受講証明書**：認定制度に関わる受講証明の受領を希望される方には、会場入口の受付にて、1 人につき 1 枚を発行いたします。

**内 容**：各講習とも質疑応答を含めて、40 分を予定しています。

**(1) HLA に関する基礎医学的な講演**

八幡 真人 先生（シンガポール国立大学小児科）

（HLA と KIR システムー基礎と臨床応用）

**(2) 認定制度試験問題解説を中心とした HLA に関する講演**

木村 彰方 先生（東京医科歯科大学 難治疾患研究所分子病態分野）

（演題未定）

**(3) 臓器移植・再生医療に関する講演**

吉澤 淳 先生（京都大学消化器外科）

（演題未定）

この講習会は、今後 HLA 検査技術者認定を取得、あるいは更新しようとする者を対象に実施されますが、それ以外の大会参加者であっても自由に参加することができます。事前に受講希望届けを提出し、事前登録していただく必要はございません。

## 初心者講習会の開催及び参加希望者募集について

組織適合性学会教育委員会  
委員長 太田正穂  
組織適合性学会初心者教育部会  
部会長 高 陽淑

日本組織適合性学会では、学会大会プログラムにおいてQCワークショップや技術者講習会を開催し、学会員の組織適合性検査に関わる知識や技術の向上を目指しております。

しかし一方では、組織適合性検査に関する基礎的な知識の習得や日常業務に役立つポイントなどの情報交換ができる時間を十分に確保することは難しい状況があります。

そこで、今年度も下記の通り、HLA および HLA 検査に関する基礎的な内容の教育訓練を目的とした「初心者講習会」（複数企画を予定）を大会期間中に開催する事と致しました。

### 記

- 1, 対 象：学会員および大会参加者  
(組織適合検査の初心者で、HLA の基礎的な内容の教育訓練を希望する方)
- 2, 日 時：日本組織適合性学会第 26 回大会期間中
- 3, 会 場：JMS アステールプラザ
- 4, 定 員：各企画につき 20 名程度  
(定員数を超える場合は、当委員会で選考を行う場合があります。)
- 5, 参加費：無料
- 6, その他：申し込みに関する詳細は 7 月中旬に日本組織適合性学会のホームページ (<http://jshi.umin.ac.jp/>) に掲載致します (応募締め切りは 8 月末を予定しています)。

以上

## 平成 28 年度 認定 HLA 検査技術者講習会アンケート集計結果

開催日時：平成 28 年 10 月 22 日（土）10：00～12：00

会 場：第 25 回・日本組織適合性学会 大会会場  
北海道大学 学術交流会館

回答者総数：68 名

### 1) 旅費・滞在費の財源について 回答者

①	私費	10 名 (14.7%)
②	職場からの支援	48 名 (70.6%)
③	その他	10 名 (14.7%)

③その他の内訳：経費不要，科研費，個人の出張旅費，県からの補助，メーカー展示

### 2) 職場・職務について

職場 回答者

①	病院	34 名 (50.0%)
②	血液センター	4 名 (5.9%)
③	検査センター	4 名 (5.9%)
④	大学（国公立，私立）	14 名 (20.6%)
⑤	民間企業	7 名 (10.3%)
⑥	その他	5 名 (7.3%)

輸血部：15 名，検査部：11 名

製薬会社：4 名

職務 回答者

①	臨床医	2 名 (2.9%)
②	臨床検査業務	39 名 (57.4%)
③	検査受託業務	5 名 (7.3%)
④	製造業関連業務	1 名 (1.5%)
⑤	製品開発業務	3 名 (4.4%)
⑥	教育業務	0 名 (0.0%)
⑦	研究業務	8 名 (11.8%)
⑧	その他	10 名 (14.7%)

臓器：15 名，輸血：15 名，造血幹細胞：8 名

### 3) 参加者の認定制度への関わりについて

認定資格の取得状況および取得への希望 回答者 63 名

- ① 資格取得済み：18 名 (28.6%)
- ② 資格取得希望：36 名 (57.1%)
- ③ 資格取得希望しない：9 名 (14.3%)

取得済みまたは取得を希望する資格

- ① 取得を希望する認定技術者：33 名  
 (希望する年；2016 年：1 名，2017 年：7 名，2018 年：6 名，未定：19 名)  
 取得済み；13 名
- ② 取得を希望する認定指導者：4 名  
 (希望する年；2018 年：1 名，2020 年 1 名，未定：2 名)  
 取得済み；4 名

4) 学会ホームページに掲載された，講習会テキストの事前確認の有無 回答者 66 名  
 あり 50 名 (75.8%) なし 16 名 (24.2%)

5) 講習科目の種類は適切であったか？ (数値は 5 点満点の平均点)  
平均点 4.7

- 評価の基準：5：すべての科目において適切であった。 : 41 名
- 4：一部の科目に問題があったが，ほぼ適切であった。 : 7 名
- 3：約半数の科目は適切であった。 : 4 名
- 2：多くの科目について不適切であった。
- 1：すべての科目について不適切であった。

6) 講習内容のレベルならびに講習テキストは適切であったか？ (数値は 5 点満点の平均点)

	講演評価	テキスト評価
平均点	3.9	4.0

- 評価の基準：5：すべて理解できた。
- 4：一部は難解であったがほぼ理解できた。
- 3：約半分は理解できた。
- 2：多くの内容について難解であった。
- 1：すべての内容が難解であった。

7) 講習時間は量的に適切であったか？ (数値は 5 点満点の平均点)

時間評価平均点	その他 要望
4.4	無し

- 評価の基準：5：適切であった。
- 4：ほぼ適切であった。
- 3：もっと長時間の講習を受けたかった。
- 2：講習時間はもう少し短くてもよかった。
- 1：その他

8) 講習会の開催通知は適切であったか？（数値は 5 点満点の平均点）

平均点 4.8

評価の基準：5：適切であった。	: 48 名
4：あやうく見落とすところであった。	: 9 名
3：他の人から情報を得るまで気が付かなかった。	: 3 名
2：その他	

情報の入手経路	回答数
学会ホームページ	19 名 (31.7%)
メール	2 名 (3.3%)
会社	1 名 (1.7%)
その他 記入無し	38 名 (63.3%)

9) その他の意見

- テキストを抄録に入れて欲しい
- NGS タイピングの講演を聞きたい
- 旅費等の問題から大阪・東京等の都市で開催を希望

## 組織適合性技術者認定制度委員会・部会名簿 (2017)

### 組織適合性技術者認定制度委員会

委員長：田中 秀則

副委員長：中島 文明

委員：石塚 敏，一戸 辰夫，太田 正穂，木村 彰方，黒田 ゆかり，高 陽淑，徳永 勝士，  
成瀬 妙子，西村 泰治，湯沢 賢治

### 資格審査部会

部長：成瀬 妙子

部員：安藤 麻子，中島 文明，清水 まり恵

### 試験問題検討部会

部長：木村 彰方

副部長：平山 謙二

部員：一戸 辰夫，太田 正穂，田中 秀則，徳永 勝士，成瀬 妙子，西村 泰治，湯沢 賢治

### QCワークショップ部会

部長：中島 文明

副部長：黒田 ゆかり，高 陽淑，橋口 裕樹

部員：石塚 敏，一戸 辰夫，川井 信太郎，吉川 枝里，木村 彰方，小林 孝彰，田中 秀則，  
成瀬 妙子，宮崎 孔，藤原 孝記，湯沢 賢治

### 参考マニュアル作成WG

HLA タイピング WG：成瀬 妙子，黒田 ゆかり，吉川 枝里，小川 公明

抗HLA抗体WG：高 陽淑，川井 信太郎，藤原 孝記，横沢 佑弥

クロスマッチWG：橋口 裕樹，石塚 敏，黒木 聖久，高山 智美，藤井 明美，金本 人美

表記法WG：黒田 ゆかり，石塚 敏，木村 彰方，田中 秀則